

施設の自己評価（令和4年度）

矢部 保育園
園長 猿木智栄

令和4年度に実施した「保育士の自己評価」の結果を元に、「保育の質」の観点により園の良い点、改善点を洗い出し、改善に向けた取り組みを整理したいと思います。

I. 専門職としての基盤

全体的には、良い評価（aまたはb）となっている。

「保育所保育士指針」に基づいて、年齢や月齢の発達段階などに応じ、養護や教育が一体となって豊かな人間性が育まれるように、保育することを継続する。

（課題）

保育士同士の話し合いやクラスを越えた情報の共有を進めるよう、改善したいと思います。

II. 専門的評価・専門的役割

毎年、園内保育研修を実施し、保育に関する知識や技術の向上を積み重ねています。

（課題）

更に専門書を読むなど、意識の向上を図っていききたいと思います。

III. 専門的・知識・技術

1. 子どもへの保育実践

- ・子どもへの毎日の保育実践は、指導計画などに関連させ行っている。
- ・障害児保育、特別支援教育など、もっと研修し理解を深めて、職員全体の共通理解を図っていききたい。

2. 保護者への関わり

- ・ソーシャルワークの意味を知らない職員が多い。
- ・保護者への保育に関する助言のための、努力が必要だと思われる。

園全体としての今後の課題

- ・経験年数10年以上と未満の職員とのコミュニケーションの機会を増やしていききたいと思います。
- ・保育の中で実践している項目について、ただ「はい」or「いいえ」の結果でなく、自己研鑽と何が必要なのか、個別に面談していく必要があると思います。